#	業名	521	105	畜産関係事務費	+F	当課			農政部 畜産課		
7	番枝		田庄民味予切其	71	二 本		次 NP 田庄 III				
会計		1	一般会計	総	政策		4	「にぎわい」のあるまちをめざして			
予				農林水産業費	命	分里	7	4	畜産業		
算	項	į	2	畜産業費		基本於	拖策	1	安定した畜産経営環境を整備する		
	目 1		1	畜産総務費	Ш	施領	策 1 競争力のある生産基盤の整備				
根拠計画											
3	実施計画事業			畜産関係事務費							

1 事業の目的・概要(Plan)

-	_	尹未の日的 帆女	(Fiail)		
I		誰を(対象)	畜産農家(肉用牛繁殖、肉用牛肥育、酪農、養豚、養鶏)	対象者数	241 戸
	目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・高山市の畜産振興の向上		
	概要	事業の 実施手法 (手段)	・飛驒畜産振興会の活動支援、畜産委員への報酬等		

2 事業の推移・結果(Do)

	・畜産関係各種団体委員への謝礼 ・乖職多金集組会の負担会(承職3束1対及び10などで構成)
112000天假	Ⅰ・飛驒系産集剛会の負担会(飛驒3市1村及び、IΔなどで構成)

		指標名		目標·実績	H24	H25	H26
活	玄在明/5/2/14日	在 委员连新进划	14-	目標値	33	33	33
動指	苗座関係合悝四	体安貝活動謝礼	14	実績値	33	33	33
標	算出根拠等			達成率(%)	100	100	100
战	内田生飼育頭物	,	丽	目標値	3,800	3,900	4,000
未指	内用于两目频频			実績値	3,398	3,304	3,303
標	算出根拠等			達成率(%)	89	85	83
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
	動指標 成果指	動指標 成果指標 算出根拠等 算出根拠等 算出根拠等 算出根拠等 算出根拠等 算出根拠等 算出根拠等 算出根拠等	活動指揮係各種団体委員活動謝礼 指導出根拠等 肉用牛飼育頭数 算出根拠等 算出根拠等 算出根拠等	活動指標	活動	活動	活動

			(人件費る	事業費 を除き繰越・補正を含	計 む)	H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額
	歳出(千円) (人					943	1,210	1,031
コス	財 受益者負担(使用料·負担金等)					36	39	40
۲	源 その他特定財源(国・県支出金・起債等)					30	30	30
面						877	1,141	961
	コス	スト 受益者1件当たり(円)			(A/B)	3,727	4,783	4,278
	指相	票	受益者	畜産農家	(B)	253	253	241

3	分析·評価(C	heck)	※平成26年度の実績	を評価					1		
	評価項目		評価観点			評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実	施に対する市民ニーズの傾向	可はどう	A (2)	ニーズが高い					
1	市民ニーズ の確認		勢の変化など時の経過に伴い	ハニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α		は市民全体にとって重要で で畜産振興のためにも重要	
		は減少し	ていないか		C (0)	ニーズが低い					
					A (2)	事業主体を見直す	余地はない				
2	市が実施する 必要性		業主体であることは妥当か 民間の活動と競合していない	か	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	・飛騨地域としての畜産 市負担金は不可欠であ	E振興活動のため、飛騨畜産 らる。	産振興会への
					C (0)	市が実施する必要	性が低い				
					A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		・飛騨地域としての畜産	E振興活動のため、飛騨畜産	産振興会への
3	活動内容の 有効性		する成果があがっているか 標などの目標値の達成状況!	まどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В		る。 には、各種書類の取りまとぬ	りを依頼して
					C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		いる。		
			のコストで事業を実施できてし など事業の効率化・省力化に		A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない		・飛騨畜産振興会への	負担金により飛騨地域として	ての畜産振興
4	執行方法 の効率性	国等の	こ改善の余地はないか 補助金の活用など市の財政1	負担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	Α		には、各種書類の取りまとぬ	かを依頼して
			₹地はないか 負担は適正か		C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必		おり、効率的な運営が関	凶られている。	
		があった			A (2)	効果があった			・飛騨畜産振興会により	J、広域的な施策の推進がI	図られてい
(5)	政策面に おける効果	上で有効	画及び主要計画等の目標達 加に機能したか		B (1)	ある程度効果があ	った	В		により、個々の畜産農家に	周知が図られ
		・市長公か	約の実現を図る上で有効に概	見能した	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった		ている。		
		合	ā†		8	/ 10	\rightarrow		100点換算	80	点
(Г,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするたる 必要なのかを記	課題めに何が	・畜産を取り巻く情勢の的確 ・畜産アドバイザーの効果を		び農業者	への情報提供・指導	<u> </u>				
	(参考) H26事業評価	結里	・畜産アドバイザーの効果を	検証する	必要があ	<u></u>					

(二次評価)

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 27年度の対応状況

・畜産情勢を注視しながら事業を継続して実施する。

維持·改善

	0	維持·改善		拡大		縮小		廃止の検討	H26完了	H27完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	・畜産	情勢を注視しながら事	業を継	続して実施する。						
			_		_		_			

廃止の検討

H26完了

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

・畜産委員、団体からの意見を踏まえ、効果的な事業実施に努める必要がある。

拡大

H27完了予定

事	事業名		215	後継者等肉用牛貸付事業費	担当課				農政部 畜産課	内線 2239	
	会計		1	一般会計	6//	政策	女策 4 「にぎわい」のあるまちをめざし				
予	款		5	農林水産業費	総合	分里	P	4	畜産業		
算	項 2		2	畜産業費	計	基本抗	施策 1 安定した畜産経営環境を整備する				
	目		2	畜産振興費	凹	施領	ŧ	3	あらたな担い手の確保		
	根拠計画										
3	実施計画事業			後継者等肉用牛貸付事業							

1 事業の目的・概要(Plan)

	争未の日的	(Fiail)		
	誰を(対象)	肉用牛繁殖農家	対象者数	178 戸
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・飛騨牛繁殖基盤の確保並びに拡大を行い畜産の安定経営を図る。		
概要	事業の 実施手法 (手段)	・肉用繁殖雌牛の5年間無償貸付		

		H26の実績	·貸付頭数 42頭								
			指標名	単位	目標·実績	H24	H25	H26			
	成	肉用牛飼育頭数	,	頭	目標値	3,800	3,900	4,000			
	果指	内用干刷目现数	•	爽	実績値	3,398	3,304	3,303			
	標	算出根拠等			達成率(%)	89	85	83			
	成果	貸付実施頭数		頭	目標値	75	75	75			
	未 指	員的天池與奴		250	実績値	60	70	42			
	標	算出根拠等			達成率(%)	80	93	56			
					目標値						
成					実績値						
成果面		算出根拠等			達成率(%)						
血					目標値						
					実績値						
		算出根拠等			達成率(%)						
					目標値						
					実績値						
		算出根拠等			達成率(%)						
			•		目標値						
					実績値						
		算出根拠等			達成率(%)		·				
	補足事項										
					•	•					

			(人件費	事業費 を除き繰越・補正を含む)	H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額
				歳出 (千円)	(A)	25,000	29,000	18,000
コス		受益	者負担(使用料	·負担金等)				
۲	源内	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				25,000	29,000	18,000
面	訳	一般財源						
	i,	スト	受益者1件当た	:り(円)	(A/B)	129,534	150,259	104,046
	指	標	受益者	肉用牛繁殖農家	(B)	193	193	173

3	分析·評価(C	heck) ※平成26年度の実績を	評価							
	評価項目	評価観点			評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向	はどう	A (2)	ニーズが高い			・小規模・零細な農家に	ことって、繁殖雌牛の育成は	大きな出費と
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い	ニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В	他にも有利な貸付制度	りは助かる。また大規模農家 が有り、利用が少ない。(月	
		は減少していないか		C (0)	ニーズが低い			望も有り)		
				A (2)	事業主体を見直す	余地はない			******	- T#-
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないが	か	B (1)	一部見直しが必要	である	Α		基礎にして、国・県・市で基金 上となり平成23年度で返還 基金で運用してる。	
				C (0)	市が実施する必要	性が低い		Elon Horiza Cica	EM CEMIO CO	
				A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている			**************************************	
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況は	はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	戸数が急激に減少する	等における後継者不足により 中、繁殖雌牛飼養頭数の洞 →H26 戸数▲9.3% 頭数↓	し を低率に
				C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		R0 - E07 C0 - 08 (1120	1120) 32 ± 0.070 32 32 32	0.00 /0/
		・最小限のコストで事業を実施できてい・委託化など事業の効率化・省力化に		A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない				
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負	担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	В	・数年前に事業の見直し 金を運用している。	しを行い、現在は、県と市の	積立てた基
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か		C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必				
		・事業の実施が市の政策、施策の推進があったか	に効果	A (2)	効果があった					
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成 上で有効に機能したか		B (1)	ある程度効果があ	っった	Α	・繁殖雌牛の保留や導点県外導入や更新等でも	入に効果があり、零細な農業 手軽に利用できる。	家にとっては
		・市長公約の実現を図る上で有効に機 か	能した	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった				
		合計		8	/ 10	\rightarrow		100点換算	80	点
(Г,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	課題 ・高齢化や後継者不足で、畜 かに何が ・国の補助会が廃止になり	産農家が	減少して	いる。		を受け付	ける方策はないか。		
	(参考) H26事業評価約 (二次評価)		、増頭目	標達成の	ための効果的な運	用を図っていく必要がある。				

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 27年度の対応状況

・繁殖農家の経営にとって有効な事業であるため内容等の見直しを視野に入れながら継続する。

	0	維持·改善		拡大		縮小		廃止の検討	H26完了	H27完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	•繁殖	農家の経営にとって有	一効な事	業であるため内容等	等の見ī	直しを視野に入れな	がら継	続する。		
	0	維持·改善		拡大		縮小		廃止の検討	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価) ・畜産農家のニーズを踏まえ、増頭目標達成のための効果的な運用を図っていく必要がある。

事	業名	522 番枝	220	家畜防疫衛生事業費	担	当課			農政部 畜産課	内線 2237
	会記	it	1	一般会計	4//	政策	É	4	「にぎわい」のあるまちをまざして	
予			農林水産業費	総合	分野		4	畜産業		
算	項	į	2	畜産業費	計画	基本於	拖策	1	安定した畜産経営環境を整備する	
	目		2	畜産振興費		施領	É	2	安全で安心な畜産物の供給	
	根拠詞									
5	実施計画事業 家畜防疫衛生事業									

1 事業の目的・概要(Plan)

	事未の日的	(Tiall)		
	誰を(対象)	畜産農家(肉用牛繁殖、肉用牛肥育、酪農、養豚、養鶏)	対象者数	231 戸
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・家畜伝染病の発生予防に努め、低コストで高品質な畜産物の安全安心 る。	⟩な生産・供給による₹	备産経営の向上を図
概要	事業の 実施手法 (手段)	· 伝染病調查及び発生予防 · 法定家畜伝染病予防接種補助 · 家畜伝染病予防消毒薬備蓄及び配布		

2 事業の推移・結果(Do)

受益者

畜産農家

・伝染病浸潤状況の調査
・法定家畜伝染病(鶏ニューカッスル病)予防接種補助
・家畜伝染病対策マニュアルの作成及び周知

		指標名	単位	目標·実績	H24	H25	H26
活	计中央本层独 点	マ叶拉廷/范ェー 土ラル点)	羽	目標値	153,000	153,000	150,000
動指	法正 多雷伝采病	予防接種(鶏ニューカッスル病)	33	実績値	156,300	131,630	90,000
標	算出根拠等			達成率(%)	102	86	60
活	周以道 3 阪林宁	疾病検査(オーエスキー病)	頭	目標値	130	130	130
動指	朱外等八脉行足	大柄快旦(オーエヘヤー柄)	200	実績値	10	10	35
標	算出根拠等			達成率(%)	8	8	27
活	昆山仁沈佳(井)	白血病)抗体検査	頭	目標値	2,400	2,400	2,400
動成指	油山仏未納(十日	コ皿内/加件快旦	200	実績値	1,550	1,380	1,447
成果 虚 成	算出根拠等			達成率(%)	65	58	60
13%	法定伝染病発生	粉	件	目標値	0	0	0
果指	本足仏未拘光工	.90	IT	実績値	0	0	0
標	算出根拠等			達成率(%)			
成	肉用牛飼養頭数	,	頭	目標値	3,800	3,900	4,000
果指	内加干则变现数	•	200	実績値	3,398	3,304	3,303
標	算出根拠等			達成率(%)	89	85	83
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			

			事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額
			歳出 (千円)	(A)	1,153	1,228	1,140
コス	財	受益	者負担(使用料・負担金等)				
۲	源内	その	他特定財源(国・県支出金・起債等)		1,153	1,228	1,140
面	訳	一般	財源				
		スト	受益者1件当たり(円)	(A/B)	4,557	4,854	4,730

253

253

241

3	分析・評価(C		評価					T			
	評価項目	評価観点			評価	基準	評価	評価内容	学の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向に	よどう A	A (2)	ニーズが高い						
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い=	=−ズ B	3 (1)	ある程度のニーズ	がある	Α	・安全で安心な畜産物の	供給が望まれておりニーズは高い。		
		は減少していないか	С	C (0)	ニーズが低い						
			А	A (2)	事業主体を見直す	余地はない					
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	В	3 (1)	一部見直しが必要	である	Α	あるが、市及び飛騨地域	生産者自らが防疫措置をとる必要性は は全体が統一した防疫措置を図る重要 って防疫事業を図ることは妥当である。		
			С	C (0)	市が実施する必要	性が低い		ほかのり、川か・王体となっ	うて阿及争来を囚ることは女当でめる。		
			А	A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている					
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はと	どうか B	3 (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	大きな伝染病等の発生が 上がっている。	がみられず防疫事業による予防効果は		
			С		目的とする成果があがってないため大幅な見直し が必要である						
	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実			A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない							
4	執行方法 施手法に改善の余地はないか の効率性 ・国等の補助金の活用など市の財政負担を		В	3 (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			・法律上の検査を含め、生産者自らの防疫措置のための負 が伴っており妥当なコストである。			
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	С		効率化が図られていないため大幅な見直しが必 要である						
		・事業の実施が市の政策、施策の推進にがあったか	二効果 A	A (2)	効果があった			. 久孫吐佐市要太行ることに上げ完玄に沈安の及れる吐林			
⑤	政策面に おける効果	総合計画及び主要計画等の目標達成を図る で有効に機能したか		B (1) ある程度効果があった		った	В	・各種防疫事業を行うことにより家畜伝染病の発生予 高く、安心安全な畜産物ブランドの向上に効果があり に限らず、観光・商業等にも大きく効果がある。			
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能か	能した C	C (0)	あまり効果が見られなかった			TCRX 57 C BLOC BLOCK 41	CONCINIAN BOO.		
		솜計	8	,	/ 10	\rightarrow		100点換算	80 点		
(Г,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	果題 ・自衛防疫と市全体(飛騨地域 りに何が ・緊急時の防疫対策の備蓄等:				_ 滅を図りつつ、効果的な防ォ	支事業を	- 行う必要性がある。			
		(参考) H26事業評価結果 (二次評価) ・今後も引き続き、予防接種の推進、伝染病の浸潤調査を実施し防疫措置を講じていく。									

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 27年度の対応状況

・伝染病予防にかかる生産者の自衛防疫の徹底や普及啓発及び飛騨地域全体での統一した防疫措置の推進 ・届出伝染病(牛白血病)抗体検査の浸潤状況に基づき、陽性牛の淘汰等の指導措置

縮小 H27完了予定 維持·改善 拡大 廃止の検討 H26完了 次年度の 実施方針 ・今後も引き続き、予防接種の推進、伝染病の浸潤調査を実施し防疫措置を講じていく。

0 維持·改善 拡大 縮小 廃止の検討 H26完了 H27完了予定 二次評価 (企画課·総務課·財政課評価) (担当課評価に同じ)

車	業名	522	225	家畜人工授精事業費	±B	当課			農政部 畜産課	内線
7	香枝			苏田八二汉代宁不 兵	72 - TUP		及外間田注即			2239
	会記	†	1	一般会計	4/5	政策	É	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	
予	予 款 5 農林水産事業		総合	分野		4	畜産業			
算	項		2	畜産事業	計画	基本於	拖策	1	安定した畜産経営環境を整備する	
	目		2	畜産振興費		施領	É	1	競争力のある生産基盤の整備	
	根拠計画									
率施計商事業 家畜人工授精事業										

1 事業の目的・概要(Plan)

	争未の日的 恢安	(Fiail)					
	誰を(対象)	畜産農家(肉用牛繁殖・酪農)	対象者数	217 戸			
日 どういう状態 (こしたいのか (意図) ・優良子牛の生産、増頭により改良増殖を推進し、農家の経営判定を図る。							
概要	事業の 実施手法 (手段)	<mark> 実施手法 </mark>					

2 事業の推移・結果(Do)

	H26の実績	· 受精卵移植 134件 · 採卵 52件					
		指標名 指標名	単位	目標·実績	H24	H25	H26
成		h	90	目標値	3,800	3,900	4,000
果 指		K.	頭	実績値	3,398	3,304	3,303
標				達成率(%)	89	85	83
活動		P体 件 物	件	目標値	3,000	3,000	3,000
指		the IT 9X		実績値	2,934	3,065	3,188
標	算出根拠等			達成率(%)	98	102	106
泪		宇体化物	件	目標値	80	80	80
成 指		2天ル什奴	IT	実績値	28	27	134
果標	算出根拠等			達成率(%)	35	34	168
田 活 動			件	目標値	40	40	40
指				実績値	29	14	52
標	算出根拠等			達成率(%)	73	35	130
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)	·		
			補	足事項			

飼育頭数は微減傾向にあるが、人工授精・受精卵移植件数は横ばいである。

3.188件

		(人	牛費を	事業費 除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額
				歳出 (千円)	(A)	23,955	23,675	24,424
コス	財 受益者負担(使用料·負担金等)					6,075	5,576	7,383
۲	源 内	の他特定財源	(国・	県支出金·起債等)				
面	記 一般財源					17,880	18,099	17,041
	コスト	受益者1件	当た	り(円)	(A/B)	99,813	98,646	112,553
	指標 受益者 畜産		畜産農家(繁殖·酪農)	(B)	240	240	217	

3	分析·評価(C		<u> </u>						
	評価項目	評価観点		評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はど	A (2)	ニーズが高い			·	良牛の生産に必要な専門技術と知識を	
1	市民ニーズ の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴いニー	A B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α		指導することによって「飛騨牛」ブランド	
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い					
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	・業務委託先も含め技術 ことで「飛騨牛」ブランド	析者が指導的立場として業務を実施した の躍進につながった。	
			C (0)	市が実施する必要	性が低い				
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている				
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどう	ы В (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	Α	・優良牛の生産によって た。	(子牛の販売価格が全国トップで推移し	
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し				
	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向けす			A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない					
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を	B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		В	・内容を精査し、効率化やコスト削減を実施した。		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必 要である					
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効があったか	果 A (2)	効果があった					
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図 上で有効に機能したか	B (1)	B (1) ある程度効果があった		А	・優良牛の生産に努めることで「飛騨牛」ブランドを推進した。		
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった				
		숌計	9	/ 10	\rightarrow		100点換算	90 ^点	
(۲,	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	果題 りに何が ・生産者の収入増と「飛騨牛」ブラ	ンドの継続・品	翟進のためにも今後	も業務を続けていく必要が、	ある。			
	(参考) H26事業評価編 (二次評価)	・委託事務の拡大を図る必要があ							

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 27年度の対応状況

・既存の委託先との協議を進め、直営地区の委託化を検討しながら、更なる飛騨牛のブランド化や受胎率の向上を図る。

	0	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H26完了		H27完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	・既存の	の委託先との協議を遂	≛め、直	営地区の委託化を	検討した	ながら、更なる飛驒・	‡のブ ラ	ランド化や受胎率の向	上を図	ే .		
			1						1		$\overline{}$	
	\circ	維持.改藝		# 士		被 小		廃止の検制		山26空マ	1 !	U27字で系定

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

・委託事務の拡大を図る必要がある。

事	業名	522 番枝	227	繁殖牛舎建設支援事業	担	当課			農政部 畜産課	内線 2239
	会計 1 一般会計 款 5 農林水産業費		総	政策	ZIIZ	4	「もぎわい」のあるまちをめざして			
			5	農林水産業費	合	分野		4	畜産業	
算	項	項 2		畜産業費	計画	基本的	策	1	安定した畜産経営環境を整備する	
	目 2 畜産振興費				11	施第	/III	3	畜産関連施設の整備	
	根拠詞	計画								
	実施計画	画事業	ŧ	繁殖牛舎建設支援事業						

1 事業の日的・概要(Plan)

	尹未の日町 帆女	(i iaii)			
	誰を(対象)	肉用牛繁殖農家	対象者数	178	戸
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・肉用繁殖雌牛飼育頭数4,000頭を目指すため、飛騨牛の地元素畜率	の向上と飛騨牛ブラン	- ドの拡大を図る。	
概要	事業の 実施手法 (手段)	・牛舎建設等を行う生産農家、新規就農者、農事組合法人又は農業生産	奎法人に対し補助する	00	

2 事業の推移・結果(Do) H26の実績

算出根拠等

·繁殖牛舎 1棟 堆肥舎 1棟

			指標名	単位	目標·実績	H24	H25	H26
	成	肉用牛飼育頭数		頭	目標値	3,800	3,900	4,000
	果指	内用十则目现数	(頭	実績値	3,398	3,304	3,303
	標	算出根拠等			達成率(%)	89	85	83
	活	おせょうねむけ	16#	棟	目標値	3	3	3
	動指	繁殖牛舎建設実	· 模	保	実績値	2	3	1
	標	算出根拠等			達成率(%)	67	100	33
					目標値			
成					実績値			
成果		算出根拠等			達成率(%)			
面					目標値			
					実績値			
		算出根拠等			達成率(%)			
		,			目標値			
					実績値			
		算出根拠等			達成率(%)			
					目標値			•

補足事項

実績値

達成率(%)

		(人件費る	事業費 と除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額
			歳出 (千円)	(A)	10,000	15,000	7,500
コス		者負担(使用料	•負担金等)				
۲	源 内	他特定財源(国	·県支出金・起債等)				
面		財源			10,000	15,000	7,500
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	5,000,000	5,000,000	7,500,000
	指標	受益者	繁殖牛舎建設者	(B)	2	3	1

3	分析·評価(C	heck) ※平成26年度の実績を	評価								
	評価項目	評価観点			評価。	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向に	まどう	A (2)	ニーズが高い						
1	市民ニーズ の確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴いこ	ニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	В	・継続して年間数件の二	ニーズがある。		
		は減少していないか		C (0)	ニーズが低い						
				A (2)	事業主体を見直す	余地はない					
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か・国・県・民間の活動と競合していないか	n	B (1)	一部見直しが必要	である	Α	・肉用繁殖雌牛増頭のために平成23年度に立ち上げた新規業であり、他の事業主体が実施する可能性は低い。			
				C (0)	市が実施する必要	性が低い					
				A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている					
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はと	どうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	・毎年度、数件の実績が かかっている。	があり繁殖雌牛頭数の減少に歯止め		
				C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直し が必要である						
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実		A (2)	事業効率化・コスト組	縮減等の改善の余地はない					
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担	担を軽	B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		滅等がある程度図られている	В	・増頭対策にあたり、初 増頭対策に効率的であ	期投資の軽減を図ることは有効であ る。		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か		C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必					
		・事業の実施が市の政策、施策の推進にがあったか	に効果	A (2)	② 効果があった						
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成上で有効に機能したか		B (1)	ある程度効果があ	った	В	毎年度、数件の実績がかかっている。	があり繁殖雌牛頭数の減少に歯止め		
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能 か	能した	C (0) あまり効果が見られなかった		れなかった					
		合計	6	3	/ 10	\rightarrow		100点換算	60 #		
(Г,	分析・評価で 明らかになった課題 ・制度の周知を図り、利用促進を行う必要がある。 ・注か、計画段階で農地転用、建築確認等の手続きを確実に行うよう指導する必要がある。 ・また、計画段階で農地転用、建築確認等の手続きを確実に行うよう指導する必要がある。										
	(参考) H26事業評価額 (二次評価)	H26事業評価結果 · 畜産農家のニーズを踏まえ、増頭目標達成のための効果的な運用を図っていく必要がある。									

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 27年度の対応状況

・計画段階で農地転用、建築確認等の手続きを確実に行うよう指導していく。

	0	維持·改善		拡大		縮小		廃止の検討	H26完了	H27完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	•積極的	的に事業のPRを行い	、畜産原	農家の投資を軽減し	、繁殖	雌牛の増頭を促進	する。			
	0	維持·改善		拡大		縮小		廃止の検討	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

・畜産農家のニーズを踏まえ、増頭目標達成のための効果的な運用を図っていく必要がある。

#	事業名		230	家畜改良推進事業費	±F	当課			農政部 畜産課	内線
Ŧ	*1	番枝		苏田以及征延于 未具	15	- I			废以即 由注味	2239
	会記	会計 1 一般会計		総	政策	策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして		
予	3"		5	農林水産業費	総合	分野		4 畜産業		
算	項		2	畜産業費	計画	基本施策		1	安定した畜産経営環境を整備する	
	目 2 畜産振興費			畜産振興費	Ш	施贫	策	2	安全で安心な畜産物の供給	
根拠計画										
3	実施計画	事業	ŧ	家畜改良推進事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

	尹未の日の 伽女	(Fiail)		
	誰を(対象)	畜産農家(肉用牛繁殖、肉用牛肥育、酪農、養豚、養鶏)	対象者数	241 戸
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・家畜の改良度や改良の方向性の確認のため各種品評会を開催するこ 意欲向上による増産を図る。	とにより、畜産物のブ	ランド化及び、農家の
概要	事業の 実施手法 (手段)	・各種品評会の開催		

2 事業の推移・結果(Do)

		H26の実績	·市畜産共進会経費等家畜改良事 ·全国和牛能力共進会負担金〈飛騨		会負担金)							
			指標名	単位	目標·実績	H24	H25	H26				
	成	肉用牛繁殖雌牛	· 飼育頭数	ŌĒ	目標値	3,800	3,900	4,000				
	果指	内用于条理器下	· 四月 與	35	実績値	3,398	3,304	3,303				
	標	算出根拠等			達成率(%)	89	85	83				
					目標値							
					実績値							
		算出根拠等			達成率(%)							
					目標値							
成					実績値							
成果面		算出根拠等			達成率(%)							
面					目標値							
					実績値							
		算出根拠等			達成率(%)							
					目標値							
					実績値							
		算出根拠等			達成率(%)							
					目標値							
					実績値							
		算出根拠等			達成率(%)							
	補足事項											

			(人件費る	事業費 を除き繰越・補正を含む	3)	H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額			
				歳出 (千円)	(A)	4,533	928	752			
コス	財 受益者負担(使用料·負担金等)					424	424	182			
۲	での他特定財源(国・県支出金・起債等)										
面	訳					4,109	504	570			
	コスト指標		ト 受益者1件当たり(円) (A			17,917	3,668	3,120			
			受益者	畜産農家	(B)	253	253	241			

3	分析·評価(C		評価								
	評価項目	評価観点			評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)		
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向	はどう	A (2)	ニーズが高い						
1	市民ニーズ の確認	か ・社会情勢の変化など時の経過に伴い	ニーズ	B (1)	ある程度のニース	ぶがある	Α	・飛騨牛ブランドを始め PRが市民にとって重要	とするブランド確立を図り「安全・安心」の 『である。		
		は減少していないか		C (0)	ニーズが低い						
				A (2)	事業主体を見直す	ナ余地はない					
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないた	6 \	B (1)	一部見直しが必要	要である	Α	・飛騨地域としての畜産振興活動のため飛騨畜産振興会への 市負担は不可欠である。			
				C (0)	市が実施する必要	要性が低い					
				A (2)	目的とする成果が	・十分にあがっている		・飛騨地域としての畜産振興活動のため飛騨畜産振興会への			
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況は	どうか	B (1)	目的とする成果が	がある程度あがっている	В	市負担は不可欠である ・ 畜産物のブランド化及			
				C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		度上がっている。			
	執行方法 の効率性	・最小限のコストで事業を実施できてい ・委託化など事業の効率化・省力化に向		A (2)	事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない					
4		施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負	助金の活用など市の財政負担を軽		事業効率化・コスト新	減等がある程度図られている	Α	・畜産振興会への負担 が効率的に行われてい	金により飛騨地域としての畜産振興活動 >る。		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か		C (0)	効率化が図られてし 要である	ないため大幅な見直しが必					
		・事業の実施が市の政策、施策の推進があったか	に効果	A (2)	効果があった						
(5)	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成 上で有効に機能したか		B (1)	ある程度効果があ	らった	В		催により、畜産農家相互の意見交換や F確認することができた。		
		・市長公約の実現を図る上で有効に機 か	能した	C (0)	あまり効果が見ら	れなかった					
		合計	8	8	/ 10	\rightarrow		100点換算	80 <u>ś</u>		
(Γ	分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	課題 かに何が・畜産を取り巻く情勢の的確な	な把握及び	が農業者	への情報提供・指	i					
	(参考) H26事業評価級 (二次評価)		地位を確こ	立するた	め、各種品評会の	機会を捉え、市内外への積	極的なP	R・情報発信を図る必要:	がある。		

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 27年度の対応状況

・県・他市村・JA等関係機関と連携を密にし、各種品評会を実施し更なるブランド化を図る。

	0	維持·改善		拡大		縮小		廃止の検討	H26完了	H27完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	・県・他	也市村・JA等関係機関	と連携	を密にし、各種品評	会を実	施し更なるブランド	比を図る	5.		
	0	維持•改善		拡大		縮小		廃止の検討	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

・全国的なブランド牛としての地位を確立するため、各種品評会の機会を捉え、市内外への積極的なPR・情報発信を図る必要がある。

#	業名	522	235	牧場放牧事業費	±F	当課	農政部 畜産課			内線	
Ŧ	未石	番枝		以初放以于未 其	15	- I					
	会記	会計 1 一般会計 款 5 農林水産業費		総	政策	ŧ	4	「にぎわい」のあるまちをまざして			
予	款			合	分里	P	4	畜産業			
算	項		2	畜産業費	計画	基本於	拖策	1	安定した畜産経営環境を整備する		
	目		2	畜産振興費	施策 1 競争力のある生産基盤の整備			競争力のある生産基盤の整備			
根拠計画											
3	実施計画	<mark>色計画事業 牧場放牧事業費</mark>									

1 事業の日的・概要(Plan)

	尹未の日の 伽女	(i iaii)		
	誰を(対象)	畜産農家(肉用牛繁殖)	対象者数	175 戸
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・夏山冬里方式の飼養管理として放牧推進を図り、他農業との複合経営 図る	の確立、飛騨牛の低	コスト生産及び増産を
概要	事業の 実施手法 (手段)	・放牧場の整備、充実を図るとともに、適正な牧場利用調整、推進を行う	,	

2 事業の推移・結果(Do)

H	指標名	単位	目標·実績	H24	H25	H26
活		74	目標値	72,000	72,000	72,000
動	放牧延べ頭数	頭	実績値	59,134	59,492	47,346
指標			達成率(%)	82	83	66
- 122			目標値			
			実績値			
	算出根拠等		達成率(%)			
			目標値			
БÜ			実績値			
成果面	算出根拠等		達成率(%)			
面			目標値			
			実績値			
	算出根拠等		達成率(%)			
			目標値			
			実績値			
	算出根拠等		達成率(%)			
			目標値			
			実績値			
	算出根拠等		達成率(%)		·	
		補	足事項			

		(人件費	事業費 を除き繰越・補正を含む))	H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額
			歳出(千円)	(A)	17,777	18,526	18,792
コス		益者負担(使用料	•負担金等)		8,985	8,924	7,102
۲	源 その	の他特定財源(国	·県支出金·起債等)				
面		设財源			8,792	9,602	11,690
	コスト			(A/B)	92,109	95,990	108,624
	指標	受益者	肉用牛繁殖農家	(B)	193	193	173

3	分析·評価(C	heck)	※平成26年度の実績を	·評価																												
	評価項目		評価観点			評価	基準	評価	評価内容	容の説明(評価の理由等)																						
		・事業実活	施に対する市民ニーズの傾向	はどう	A (2)	ニーズが高い																										
1	市民ニーズ の確認		勢の変化など時の経過に伴い	ニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	ぷがある	Α	・低コスト生産畜産労働力の軽減につながりニーズが高く、刑 牛素牛生産が推進された。																							
		は減少し	ていないか		C (0)	ニーズが低い																										
					A (2)	事業主体を見直す	「余地はない																									
2	市が実施する 必要性		業主体であることは妥当か 民間の活動と競合していない:	か	B (1)	一部見直しが必要である		Α	・放牧における防疫・衛	生対策が迅速に行える。																						
					C (0)	市が実施する必要	厚性が低い																									
					A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている		# ID + 1																							
3	活動内容の 有効性						とする成果があがっているか 指標などの目標値の達成状況はどうか																				B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В		女牧頭数の調整を行い、堆肥・肥料・牧 牧場を活性化し放牧頭数の増頭を図っ
				Ī	C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		C0.00																							
	・委 執行方法 施 の効率性 ・国	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実 施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽			A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない																											
4					B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		Α	・必要最小限のコストで 担の見直しが必要とさ	のコストで事業が運営されている。また、受益者 《必要とされる。																						
			地はないか 負担は適正か		C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必																									
		・事業の! があった	か 画及び主要計画等の目標達成を図る		か 画及び主要計画等の目標達成を図る かに機能したか		画及び主要計画等の目標達成を図る かに機能したか		か 画及び主要計画等の目標達成を図る に機能したか		か		か 国及び主要計画等の目標達成を図る に機能したか		か 国及び主要計画等の目標達成を図る に機能したか		A (2)	効果があった														
(5)	政策面に おける効果	・総合計 上で有効															に機能したか		かに機能したか		画及び主要計画等の目標達成を図る 加に機能したか		画及び主要計画等の目標達成を図る に機能したか		国及び主要計画等の目標達成を図る に機能したか		に機能したか		に機能したか		かに機能したか	
		・市長公 か	約の実現を図る上で有効に機	能した	C (0)	あまり効果が見られなかった																										
		合詞	i+	!	9	/ 10	\rightarrow		100点換算	90 <u>ś</u>																						
([分析・評価で 明らかになった。 A」評価にするため 必要なのかを記	課題 かに何が	・放牧場施設及び草地の老料 進が期待される。	万化が目ご	立っており	」、順次整備してい	―――――――――――――――――――――――――――――――――――――	され繁殖		子牛生産が見込まれ飛驒牛ブランドの																						
	(参考) H26事業評価約 (二次評価)	結果	・指定管理者制度の導入に応・県営牧場の手数料引き下げ																													

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 27年度の対応状況

・指定管理者制度も含めた牧場施設・草地の維持管理方法の検討

	0	維持·改善		拡大		縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
次年度の 実施方針 (担当課評価)	•牧場(の管理方法と、牧場に	おける	迅速な家畜伝染病	防疫体	制の強化			
	0	維持·改善		拡大		縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価) ・指定管理者制度の導入に向け検討していく必要がある。

事	業名	522 番枝	245	優良飛騨牛固定推進事業補助金	担	!当課			農政部 畜産課	内線 2239
	J. I.		一般会計	総	政領	É	4	「にぎわい」のあるまちわめざして		
予			5	農林水産業費		分野		4	畜産業	
算	項		2	畜産業費	計画	計 基本施策			安定した畜産経営環境を整備する	
	目 2		2	畜産振興費		施領	ŧ	1	競争力のある生産基盤の整備	
	根拠計画									
9	実施計画事業 優良飛			優良飛騨牛固定推進事業						

1 事業の日的。郷亜(Plan)

	争耒の日的	(Plan)			
	誰を(対象)	畜産農家(肉用牛繁殖、酪農)	対象者数	204	口
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・遺伝的に良質な牛肉を生産する能力の高い繁殖牛を保留又は導入す。 ・優良な乳用牛の保留又は導入による酪農経営の強化。	5 .		
概要	事業の 実施手法 (手段)	・優良飛騨牛、優良乳用牛増頭に対する補助			

2 事業の推移・結果(Do)

	・優良雌牛保留対策 116頭
H26の実績	・優良飛騨牛増頭推進 50頭
	·優良乳用牛保留·導入対策 30頭

			指標名	単位	目標·実績	H24	H25	H26	
	成日	内田上敏陆雌牛	··乳用牛雌牛飼養頭	頭	目標値	4,900	4,900	4,900	
	果指	内用十条炮蜒十	- 孔用十째十四变现	頭	実績値	4,712	4,599	4,577	
	標	算出根拠等			達成率(%)	96	94	93	
	成	優良雌牛保留·ż	善 3 元五米h	頭	目標値	230	230	230	
	果指	医及雌十体曲 *	孝 人頭奴	頭	実績値	190	192	196	
	標	算出根拠等			達成率(%)	83	83	85	
					目標値				
成					実績値				
成果面		算出根拠等			達成率(%)				
面					目標値				
					実績値				
		算出根拠等			達成率(%)				
					目標値				
					実績値				
		算出根拠等			達成率(%)				
			•		目標値				
					実績値				
		算出根拠等			達成率(%)				
	補足事項								

		(人件費	事業費 を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額
			歳出(千円)	(A)	31,690	32,446	33,194
コス		者負担(使用料	•負担金等)				
F	源 内	他特定財源(国	·県支出金·起債等)		12,816	13,546	13,572
面		財源			18,874	18,900	19,622
	コスト	コスト 受益者1件当たり(円)		(A/B)	146,037	150,912	180,402
	指標	受益者	肉用牛繁殖農家·酪農家	(B)	217	215	184

2 八七·証価(Cheek) ※亚式26年度の宝建た証価

	<u>分析・評価(C</u> 評価項目	heck) ※平成26年度の実績を評価 評価観点		評価	基準	評価	評価内!	容の説明(評価の理由等)	
		・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどう	A (2)	ニーズが高い					
1	市民ニーズの確認	か・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ	B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α		留導入により、肉用牛繁殖経営』 盤の強化によ畜産経営の安定を をこ、	
		は減少していないか	C (0)	ニーズが低い			の争未であり、安里は	多い。	
			A (2)	事業主体を見直す	余地はない				
2	市が実施する 必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	B (1)	一部見直しが必要	である	Α		業については、H25年度より畜産 市が補助をしている。増頭推進、	
			C (0)	市が実施する必要	性が低い		間別は中午子来。		
			A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている				. m.t m.
3	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	B (1)	目的とする成果が	ある程度あがっている	В	・高齢化や病気、怪我等における後継者不足により、繁殖の 家戸数が減少する中、繁殖雌牛飼育頭数の減少を低率に食り 止めている。(H25⇒H26 戸数▲9.3% 頭数▲0.03%)		
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		1100 (0.0) (1120 1112	30 7 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30	
		・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実		事業効率化・コスト	縮減等の改善の余地はない				
4	執行方法 の効率性	施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽	B (1)	事業効率化・コスト縮	滅等がある程度図られている	Α	・優良雌牛事業は、制度変更を経て、農家に本事業が浸透し いる。		
		減する余地はないか ・受益者負担は適正か	C (0)	効率化が図られてい 要である	ないため大幅な見直しが必				
		・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果 があったか	A (2)	効果があった					
⑤	政策面に おける効果	・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか	B (1)	ある程度効果があ	った	Α	・繁殖雌牛育成に係る素畜経費は大きな負担であるが、本事により飛驒牛のブランド強化、頭数・経営維持に有効である。		
		・市長公約の実現を図る上で有効に機能した か	C (0)	あまり効果が見ら;	れなかった				
		合計	9	/ 10	\rightarrow		100点換算	90	点
([4	分析・評価で 明らかになった課題 「A」評価にするために何が 必要なのかを記入」・ 高齢化や後継者不足による畜産農家が毎年減少。								

H26事業評価結果 (二次評価)

・飼料及び関連資材価格の高止まりによる畜産経営継続意欲の滅退により高齢者及び小規模繁殖経営農家の廃業が進む中、優良雌牛の増頭により飛驒牛生産繁殖 雌牛及び乳用牛の経営基盤を強化し、畜産の経営安定を図る。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 27年度の対応状況

・条件に当てはまる優秀な雌子牛の掘り起し、さらなる保留・導入の推進。 ・飼料及び関連資材価格の高止まりによる畜産経営継続意欲の減退により高齢者及び小規模繁殖経営農家の廃業が進む中、優良雌牛の増頭により飛騨牛生産繁殖 雌牛及び乳用牛の経営基盤を強化し、畜産の経営安定を図る。

次年度の 実施方針 (担当課評価) 維持·改善 拡大 縮小 廃止の検討 H26完了 H27完了予定

・飼料及び関連資材価格の高止まりによる畜産経営継続意欲の減退により高齢者及び小規模繁殖経営農家の廃業が進む中、優良雌牛の増頭により飛騨牛生産繁殖 雌牛及び乳用牛の経営基盤を強化し、畜産の経営安定を図る。

0 拡大 縮小 廃止の検討 H26完了 H27完了予定 維持·改善

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価) (担当課評価に同じ)

事	事業名 52247		247	飛騨牛生産経営安定推進事業補助金	担	当課	農政部 畜産課		農政部 畜産課	内線 2239	
	会計		1	一般会計	411	政領	ŧ	4 「にぎわい」のあるまちをめざして			
予	321		5	農林水産業費	総合	合 分野 4 音		4	畜産業		
算	項	項		畜産業費	計 基本施策 1 安定した畜産		1	安定した畜産経営環境を整備する			
	目		2	畜産振興費		施領	ŧ	1	競争力のある生産基盤の整備		
	根拠計画										
3	実施計画事業			飛騨牛生産経営安定推進事業							

1 事業の目的・概要(Plan)

	誰を(対象)	肉用牛繁殖農家	対象者数	178 戸
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・子牛生産における事故は繁殖経営に大きな打撃を与えるため通常、刑加入するが、共済対象外の事故も発生し大きな打撃になることから、そり助制度を行うための基金を造成するので、その基金造成に対し一部を目	、 解農業共済事務組合 がった事故に備える。	が取り扱う家畜共済に
概要	事業の 実施手法 (手段)	・高山市和牛改良組合が実施する家畜共済対象外の流死産等の事故(造成に対して一部助成する。	早期の流死産等)に対	する互助のための基金

2 事業の推移・結果(Do)

H26の実績	•互助事業加入頭数	3, 213頭

			指標名	単位	目標·実績	H24	H25	H26
	成	中田生物味业	A2 * =3 *b		目標値	3,800	3,900	4,000
	成果指	肉用牛繁殖雌牛	·訶赉頭釵	頭	実績値	3,398	3,304	3,303
	標	算出根拠等		•	達成率(%)	89	85	83
	成	互助事業加入頭数		頭	目標値	3,360	3,600	3,600
	果指	旦助争未加入即	1903	坝共	実績値	3,351	3,284	3,213
	標	算出根拠等			達成率(%)	100	91	89
					目標値			
成					実績値			
成果面		算出根拠等			達成率(%)			
Ш					目標値			
					実績値			
		算出根拠等			達成率(%)			
					目標値			
					実績値			
		算出根拠等			達成率(%)			
					目標値			
					実績値			
		算出根拠等			達成率(%)		·	
				補	足事項			

		(人件費	事業費 を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額
			歳出 (千円)	(A)	543	647	556
コス		益者負担(使用料	·負担金等)				
۲	源 その	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
面		设財源			543	647	556
	コスト	受益者1件当た	り(円)	(A/B)	2,813	3,352	3,214
	指標				193	193	173

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

П	評価項目	heck) <u>※平成26年度の実績を</u> 評価観点	·評価		評·	価基準		評価	評価内容	容の説明(評価の理問	由等)						
				A (2)	ニーズが高い												
(1)		・事業実施に対する市民ニーズの傾向にか		B (1) å	ある程度のニー	-ズがある		В	・流産等の事故は、毎年1~2%程度発生しており、農家の約に大きな打撃を与えている。								
	の確認	・社会情勢の変化など時の経過に伴いこ は減少していないか	ニーズ	- 1		77.00.0											
					ニーズが低い												
	ナが中作士 7	・市が事業主体であることは妥当か	-	A (2)	事業主体を見直	す余地はない			・和牛改良組合が実施する、農業共済事業で補		で補填されない流						
2	市が実施する 必要性	・国・県・民間の活動と競合していないか)\	B (1)	一部見直しが必	多要である		Α	産等の子牛事故に備えた互助事業のための基金造成には 補助することは妥当である。								
				C (0)	市が実施する必	必要性が低い											
				A (2)	目的とする成果	が十分にあがって	いる		支払ル 5.左左 - 校 42.4	カルルフルがキナ							
3	3 活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか・成果指標などの目標値の達成状況は	どうか	B (1)	目的とする成果	がある程度あがっ	ている	В	・高齢化や病気、怪我等家戸数が減少する中、	繁殖雌牛飼育頭数σ	減少を低率に食り						
				C (0)	目的とする成果か が必要である	があがってないため大	幅な見直し		止めている。(H25⇒H2	:0 户数▲9.3% 頭麥	(▲0.03%)						
		・最小限のコストで事業を実施できてい				ト縮減等の改善の	余地はない										
4)	執行方法 の効率性	・委託化など事業の効率化・省力化に向 施手法に改善の余地はないか		B (1) 3	事業効率化・コスト	- 縮減等がある程度図	られている	А	·農家負担50%、高山市補助25%、JAから25%補助								
		・国等の補助金の活用など市の財政負 減する余地はないか ・受益者負担は適正か	担を駐	C (1) 3	効率化が図られて	こいないため大幅な見			ている。								
		・事業の実施が市の政策、施策の推進し	に効果	2	要である 効果があった												
	政策面に	があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成	L	B(i) ある程度効果があった			А	・高山市和牛改良組合 死産等の子牛事故に対									
(5)	おける効果	上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能						А	(1/4)助成し、互助事業 を和らげるのに効果が	きを援助することによ							
		か		C (0)	あまり効果が見	られなかった				1							
		合計	8	8 /	/ 10 				100点換算	80	点						
(Гд	明らかになった。 J評価にするため	課題 かに何が かに何が ・高齢化や後継者不足で、畜産	産農家が	毎年減少	している。			分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)									
	(参考) H26事業評価網																
	(二次評価)																
4 -	(二次評価)	(Action)															
4 -	今後の方向性課題等に対す	(Action)		拡大		縮小		廃止の材	t計 H2	6完了	H27完了予定						
4 :	今後の方向性課題等に対す	E(Action) る 大況 ・従来通り継続実施。 O 維持・改善		拡大		縮小	1	発止の材	t計 H2	6完了	H27完了予定						

(担当課評価に同じ)

事	事業名 52250		250	- 飛騨食肉センター運営整備事業費		担当課		農政部 畜産課		
	会計		1	一般会計	総	政領	É	4	「にぎわい」のあるまちをめざして	
予	款 5		5	農林水産業費	合	合 分野 4 畜産業		畜産業		
算	項	項 2		畜産業費	計画	基本的	拖策	1	1 安定した畜産経営を整備する	
	目		2	畜産振興費	Ш	施領	ŧ	3	畜産関連施設の整備	
	根拠計画									
実施計画事業 新飛騨食肉センター運営整備事				新飛騨食肉センター運営整備事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

	非未り合い (M安 誰を(対象)	畜産農家(肉用牛繁殖、肉用牛肥育、酪農、養豚、養鶏)	対象者数	241 戸		
目的	どういう状態 にしたいのか (意図)	・畜産の振興及び安全・安心な食肉の安定供給				
概要						

2 事業の推移・結果(Do)

		指標名	単位	目標·実績	H24	H25	H26
	成	肥育牛の飼育頭数	90	目標値	6,500	6,500	6,500
	果指	肥月午00則月頭奴	頭	実績値	5,924	6,105	5,966
	標	算出根拠等		達成率(%)	91	94	92
	成	肉豚出荷頭数	頭	目標値	6,200	6,200	6,200
	果指	内外山河峡坎	331	実績値	5,812	5,779	6,095
	標	<mark>算出根拠等</mark>		達成率(%)	94	93	98
				目標値			
成果				実績値			
果工		<mark>算出根拠等</mark>		達成率(%)			
面				目標値			
				実績値			
		<mark>算出根拠等</mark>		達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
		<mark>算出根拠等</mark>		達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
		<mark>算出根拠等</mark>		達成率(%)			

		(人件費を	事業費 を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額
			歳出(千円)	(A)	66,157	65,632	67,011
コス		受益者負担(使用料·負担金等)					
۲	源 内	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
面		一般財源			66,157	65,632	67,011
	コスト			261,490	259,415	278,054	
	指標			253	253	241	

3 分析·評価(Check) ※平成26年度の実績を評価									
	評価項目	評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)		
1	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズ は滅少していないか	A (2)	ニーズが高い			- BSE対策など、安全安心な農畜産物を市民に供給することに対するニーズはとても高い。 - 販路拡大に対しても、高レベルの食肉衛生処理が重要である。		
			B (1)	ある程度のニーズ	がある	Α			
			C (0)	ニーズが低い					
		・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す	余地はない		・大規模な他の産地と競争していくには、市村の補助が不可欠 である。		
2	市が実施する 必要性		B (1)	一部見直しが必要	である	Α			
			C (0)	市が実施する必要	性が低い				
	活動内容の 有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が	十分にあがっている				
3			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		В	・食肉センターの健全な運営は、飛騨牛ブランドの確立や畜産 振興に欠かせない。 ・BSE等の被害は確認されていない。		
			C (0)	目的とする成果があ が必要である	がってないため大幅な見直し		SOL O SINCE IONE BOCH CO. GO.		
	執行方法 の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか・委託化など事業の効率化・省カ化に向け実施手法に改善の余地はないか・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト	宿滅等の改善の余地はない				
4			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		А	・食肉センターに対し、安定的運営とともに効率化やコスト縮減を求めていく必要がある。		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必 要である					
	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る 上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった					
(5)			B (1)	ある程度効果があった		Α	・安全な食肉を提供するため、また販路拡大にあたって、高レベルの食肉衛生対策は有効である。		
			C (0)	あまり効果が見られ	れなかった				
		습하		/ 10	\rightarrow		100点換算	90 <u></u>	
(F.	分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が ・食肉センターに対し、高レベルの食肉衛生対策を維持していただくとともに運営の効率化やコスト縮減を求めていく必要がある。								

公要なのかを記入)

(参考) H26事業評価結果

(二次評価)

・センターの経営改善を促していく必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 27年度の対応状況

各種助成事業の継続実施 ・食肉センター運営委員会への出席

維持 改善

次年度の 実施方針

拡大

各種助成事業の継続実施

維持·改善 拡大 縮小 廃止の検討 H26完了 H27完了予定

縮小

廃止の検討

H26完了

二次評価 (企画課·総務課·財政課評価)

・センターの経営改善を促していく必要がある。

H27完了予定